

2022年度 後期始業式

聖書 マタイによる福音書 5章9節（新約聖書6頁）

平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。

戦争をやめた人たち

本日から英和女学院の後期が始まります。英和祭、全校修養会、讃美歌コンクール、学校クリスマスなどが予定されています。秋は皆さんの成長を最も感じる祝福された季節です。

しかし感染症が治まらないまま3年目の秋を迎えようとしています。また世界各地の紛争、特にロシアのウクライナ侵攻から半年が過ぎ、ウクライナ難民は1100万人以上となり、世界の難民は1億人を超えたと言われています。

今年の英和女学院に与えられた聖書の言葉は「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」です。後期始業にあたり「戦争をやめた人たち」のお話をしたいと思います。

今から約100年前、1914年の夏、第一次世界大戦が始まり、ヨーロッパは戦禍に包まれていました。誰もがこの戦争はクリスマスまでには終わるだろうと期待していましたが、兵士たちは戦場でクリスマスを迎えることになりました。

1914年12月24日のクリスマス・イブの夜、フランスとベルギーの国境近く、イギリス軍とドイツ軍の兵士は100mほどしか離れていない塹壕で息を潜めていました。するとドイツ軍の塹壕から歌声が聞こえてきました。ドイツ語の歌詞はわからなくても、そのメロディーはイギリス兵にもわかりました。『きよしこの夜』でした。お返しにイギリス兵は『牧人ひつじを』を歌い始め、すると御礼のようにドイツ兵は『もみの木』を歌いました。しばらくのあいだ讃美歌の応酬があり、最後は両陣営がラテン語で『神の御子は』を合唱しま

した。言葉は違ってもメロディーは同じなので両軍兵士共に安らぎに包まれました。兵士たち自身もあり得ないことだと思いつつ、敵同士が声を揃えて讃美歌を歌ったのだそうです。

そして夜が明け、クリスマス当日の朝、まず一人のドイツ兵が両手を挙げて塹壕から出てきました。するとイギリス兵も一人、そして両陣営から次々と兵士たちが出てきてチョコレート、お茶、葉巻などのプレゼントを交換し、さらにサッカーの試合までしたということです。

もちろん、初めは多くの人に作り話と思われていました。ところが生き残った両軍の兵士たちの証言や証拠が次々と明らかになり、BBCのドキュメンタリーでも世界に配信され、映画、本、歌にもなり世界に知られるところとなりました。実は、1914年のクリスマスでは他の戦場でも敵同士による合同の埋葬式が行われたこともわかりました。そして約10万人の両軍兵士が武器を置いたとも言われています。さらにある歴史家はスペイン内戦、アメリカの南北戦争、クリミア戦争、ナポレオン戦争でも同様のことが起きていたと証明しています。

もちろんこれで戦争が終わったわけではありません。しかし戦争をやめた人たちは確かにいましたし、今もいます。

文明の歴史は争いの歴史とも言われます。イエスの時代も「ローマの平和 (Pax Romana)」と呼ばれた繁栄の時代でしたが、それは武力による平和でした。しかしそうした平和は続きません。どんな正義であっても対立が憎しみを生み、争いになれば、どちらの正義も正義にはなりません。家族、仕事、家、故郷を奪われ、さまよう難民が残されるだけです。特に最も傷つくのは子どもたちです。戦争に善悪も、勝者も敗者もありません。イエスが言われているように「剣を取る者は、剣で滅びる」だけなのです。

イエスは十字架の道へ進まれる時、ろばに乗ってエルサレムに入城されました。ろばは重荷を負う象徴です。イエスはわたしたちの罪を負い、赦し、愛する「主の平和 (Pax Christi)」の道を十字架の死に至るまで歩みました。敵を愛する愛です。互いに赦し、互いに信じあう道、神様の愛と共に歩む道をしめしてくださいました。

この夏、わたしは映画やドキュメンタリーの映像、読書、音楽などを通して「平和」について考えました。そこで偶然ですが“セカオワ”の“Dragon Night”という曲を知りました。実はこの曲は、いまお話した1914年のクリスマスに戦争をやめた人たちをモチーフにして作られています。ぜひ一度、聴いてみて下さい。

わたしたちは神様に選ばれ、英和に集められ、神様に愛されている子どもです。ですから、わたしたちは平和を実現するために英和で共に祈り、学んでいます。それがわたしたちの幸いです。平和は神様が共にいてくださらないと実現しません。今年のクリスマスに向かって、毎日神様の言葉に耳を傾け、共に感謝し、祈り過ごしましょう。そして少しでも神様と共に平和を実現していきましょう。

しばらく黙祷しましょう。

慈しみ深い主よ、あなたはすべての人が平和に生きるために、十字架により憎しみの隔ての壁を除き、あなたによる平和の道を開いてくださいました。どうか今、戦争、弾圧、災害などのために住まいを失った人びと、離れ散らされた人びと、また飢えと病のうちある人びと、ことにウクライナの子どもたちを憐れみ、その必要を満たしてください。また主の愛と真理によって、その災いから解放し、まことの幸いに導いてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン